

18/6/1 名古屋城石垣部会(名古屋市民オンブズマン作成メモ)

岩本整備室長:司会

西野所長は前の用事が長引いておりまだ来ていない

部会の皆さまのご意見を伺う

北垣・赤羽・宮武・中井・洲ざき

議事に入る 資料の確認

北垣:早速資料について事務局より説明を頂きたいが、資料 1

村木:体制 本年度の調査研究体制

組織図 学芸員 管理活用課 2 名

保存整備室 2 名+3 名

学芸嘱託員 考古学 2 名 文書 3 名 写真資料員 1 人

主幹主査は考古学専門

その他考古 3 名 美術 1 名 民俗 1 人

全部で 13 名

考古学昨年度 1 名→3 名 2 名増員

嘱託 2 名+3 名増員 欠員状態

石垣調査 考古学 昨年度に比べれば 1 名→3 名と増加

人事異動等 これまでいた学芸員に変わって新規 3 名

調査研究体制として人数が増えたから、というものはあるのかな

嘱託員 文書学芸嘱託 3 名増員 十分できていないと指摘されてきた

人数が増えたからといってフルに充実するわけではない

嘱託員を含めて若い研究員入ってきた 向上を図る

学芸員間の意思疎通を図る 調査能力を高める

北垣:ご意見を

赤羽:平成 30 年度 嘱託 2+3+1 どの配置になるのか

村木:学芸嘱託は管理課

2+3 は保存整備室で

赤羽:昨年まで石垣中心でやってきた方がやめられたのは残念

1 やめた方の補充だけでなく、調査研究体制をやっていく 重要な本質的価値を持った城

調査研究体制を確立して欲しい

2 現場の主体性 委託ではなく直営で責任を持って体制を

3 石垣調査員間の意思疎通 大事

抜本的な調査体制を

北垣:その他は

宮武:動いて頂くマンパワーがどれくらいか

非現実的なことを言っても絵に描いた餅

構成と職責 管理活用課

保存整備室

石垣修理・発掘調査はだれが

村木:事業は保存整備室

搦め手は管理活用課があたる

宮武:管理活用課

管理室に所属するのか

村木:今年度はこちらが石垣

宮武:次年度以降は現場に出ないのか

村木:来年度以降体制を検討

今は話がしにくい

学芸員は管理活用課と保存整備室と連絡して欲しい

宮武:現場に立っていた方は昨年度は3名

主幹1 嘱託を除くと5名に見えるが、現場は何人か

村木:去年は1+教育委員会2名

主幹主査現場にどこまで出られるか

考古3名+嘱託員

宮武:結局変わらない

臨時人員を直属にいただけ

現場のマンパワーが増えたのか
どこの嘱託も大変
村木主幹が現場に立つのか

村木:フルに現場に責任を持つのは難しい
正職さん

宮武:増えていない 肩書きだけかえたのはだめ
赤羽先生「直営を」実際に動ける人員を、というのはそういうこと

村木:今年度はこの体制

宮武:現状維持だ

北垣:他には

私も言う 今の体制は両委員がお話しされたとおり
管理活用課・保存整備室 分かれて頭数だけそろえた
現実の問題 搦め手の問題 10年以上かかっている 解決されていない
これからの積み上げ 修復工事が始まる
現場に精通された方がおられない 新しい力でやっていく
おそらく大変な状態だ
現在進めている大小天守台 人が不足している
一体化した中で仕事をしないと 1が2,3にならない
次年度の体制をさらに充実を
いろいろな課題が出てくる

宮武:所長がいるところで聞きたかった

任命上問題
搦め手馬出 枠が入っている
両方のセクション 責任を持って専属してもらいたい
3対3 去年まで搦め手馬出から名古屋城専門がやめた
ご苦労された
今の時点での戦力は減 よくよく考えて「増えた」はあたらない

村木:人数・調査能力
その点は認識している

先生方に相談しながら現有勢力の能力を上げていく

北垣:ありがとう

次の話題 資料2 発掘調査の追加調査

木村:保存整備室学芸員の木村

昨年度から調査担当者

今回異動になった 正式な報告書の準備

中間報告 出土遺物の分析は終わっていない

写真等でご紹介させて頂く

今回調査した地点の図がある 地点と区は同じ

A~N 14 区

1カ所 A地点だけ本丸の中

他は内堀

特にA~J Eを除く9 地点 大天守台に関わる部分調査した

各地点写真を紹介

図面は十分な構成ができていない

時間がないので要点を報告する

A 天守台東側 戦争の被災状況があまりと見える

築城時の石垣が残存しているのでは

被災した状況が残っていた 必要以上に触らない

攪乱されている溝を利用して掘り下げた

地下の部分も築城時の石材・盛り土があった

B以降 築城150年後石垣修理をした 文献残っている

東側B, C 慶長期の石垣 トレンチを入れても健全な状況

築城時の土も残っていた 異常は認められなかった

宝暦期と思われる修理の土の堆積も見られた

C区 上から7石 改変 下は慶長期→築城時の積み石が残っていた

赤っぽい石 掘削はこれで止めていた 根石かどうかは判定できなかった

C区 6 ページ ブロック状粘土質 千田先生の指摘 掘り方難しい

検討する中で、地山が高いところ 妥当ではないか

地形根切

D地点

宝暦 瓦が入っている 新しい瓦が入っていない

F地点 北西隅 宝暦期修理 北西隅が顕著 全部取り替えられていた

一石掘り下げると小さい石 上半分が青白い

宝暦期の修理にあわせたのではないか

旧堀底面と合致する

H地点 宝暦期に直された石垣に見えたが、掘ってみたら築城期でよいのではないか

G地点もあった

I地点南西隅

J地点 以前掘削した清正石垣 家臣団名前刻印

K地点 復興天守盛り土があった

N地点 濃尾地震の積み直しが見られた

G地点 荒い 後世の積み直しも見られる

N地点 根石 細かいものがでている 瓦を含まない

まとめ

戦災ガラ

11:26

村木:昨年度3月部会で報告した

現在まとめを報告した

3月ご指摘頂いた C地点地山の認識 地形根切

年度末 対応できなかった

ご指導頂いたのに反映できなかったこともある

追加した方がよいと思い、この後予定の調査について説明

11:27

北垣:報告していただいたものを確認

先生方ご意見があれば

宮武:前年度視察から変わっていない

解釈が整理されたという理解

新しいトレンチが増えたというより、見たものから変わっていない

6ページ

C区 地形根切 安定化させる技

埋め込んでいた土はどのようなものか

木村:地形根切 C、I、Hあたり

いずれも砂を中心としたものを固めている

礫をほおりこんでいる

宮武:一番後ろA3 トレンチ
Iトレンチ 違う 同じ?

木村:同じ
C区、I区

宮武:根切り事業
ブロックのような礫が書かれている
なかったのか

木村:C区では礫が観察されていない

宮武:I区では砂に礫
石を入れ込んでいる

木村:砂の中に礫が混じっている
ガチガチにはしまっていなかった

宮武:C区文書 5ページ 地山 瓦
次のページに載っているか

木村:ここでは載っていない
石垣側が赤っぽい

宮武:埋め戻しは

木村:北東部未掘 地表から40センチ ラインが出た
中に瓦があった 宝暦期の可能性が高い
完全に分析しきっていない

宮武:築城期かどうか

木村:築城期ではない

宮武:どうやって埋めたか

木村:変動がないように固めた

手前は発生土に2%消石灰 改良土として埋めて固めた

宮武:安定しているという判断

余程固めないと危ない

次回から早めに送って欲しい おとといデータで送ってきて検討できない

見ながらふせんを付けている

8 ページ 土層図が付いていない 石垣の下に礫が入っている

木村:資料遅れて申し訳ない

E地点 礫 下に潜り込むものではない 前押さえの状況で入れられたもの

宮武:地山ではない

木村:地山ではない 盛り土

宮武:遺跡保護 礫を掘ってどこまで続いているかは確認していない

木村:はい

宮武:G地点 石垣下 礫が映っている

瓦か？

木村:石 刻印 築石がはがれた都考えている

宮武:石が落ちている

木村:礫が入っている 瓦が含まない

盛り土の一部ではないか

宮武:いつの

木村:築城時

宮武:13 ページ

地山を削っているのではなく、盛り土を切っている

いったん盛り土を切っているのは他にあるのか

木村: Hがそうなると思います

宮武: A3にHがはいっている

木村: そう

地山 9.10

盛り土と考えている

掘り込んで石垣を作ったと考えている

宮武: この調査の視点3つ

1 根石は宝暦改修 現在ダメージを受けているのか

2 堀 堀底が安定しているのか

3 堀の対岸 見学者が歩いている場所 安定しているのか

確認するために聞いた

大天守台 安定しているというお話 F地点

7 ページD地点 土層図がないので困る

正面の根石と思われるものと2番目はずれている

内側に引いて積んでいる

ずれは変動ではなく

どこでわかるか

普通なら前に置く

根切り ガチガチに固めるのもない

木村: 6 ページ

宮武: 固めるような盛り土はしていない

木村: していない

宮武: 9 ページ 本来の石 面を合わせるために根石をカット

くの字に削っている

前に押さえがない

木村: ぱらぱらと見える石は宝暦以降

押さえにはなっていない

宮武: 安定しているとは言い切れない

これからおきる震災

わかったことは宝暦改修で相当乱暴にやった

前から押さえしていない

この状態で大天守台健全とは言えない

A3 2枚目 戦災ガラ

I、N 地山の位置が下がっている

C、G 地山が出ない

北西隅 湿潤水が湧いている

地山に頼らず盛り土 南西H、I

地山が届かないので人工盛り土

慶長の段階 裾まわりはベース落ち込んで、盛り土かさ上げ

作った無理矢理感

宝暦 セットバックしてごまかして積み直した

3つめ 岸側安定しているのか

2ページ E、G、M 土層図がない

礫がかぶっているのか？

M 18 ページ 写真

江戸期ではないか 地山ではなく堆積土、搬入土の上

他も大丈夫か？

これより上の石垣 江戸とは思えない

濃尾地震 崩壊している 80 度

下側が盛り土のまま

他の箇所も含めて耐久性があるのか

小礫 濃尾震災の後片付けの可能性も考えるべき

これでは調査がわからない

欠落調査をしてほしい

11:52

北垣: 12 時時間設定しているが

他に意見は

赤羽: C地区 6 ページ土層断面図 A3 図を見ると創建時堀り込み 図が違う

肌色の意味 なにがちがうのか

もう1点

右端 縦にへんてこなもの

構造物があったのではないかと東西に広げてはと指摘した

杭の痕跡のようなもの 確認して欲しい

木村:地形根切 緑色ライン

これは創建時に埋めた土ではないか

5 ページ写真 西側断面 このあたりに杭みたいなものがあった

瓦を含む堀り込みが出てきた

杭状のものは見つからなかった

掘るのも難しかった

検出に至らなかった

赤羽:地山の直上になるのか

木村:そう認識した

赤羽:瓦をとっていないといけない

木村:地山面を出している

赤羽:穴のようなものは確認できなかったのか

木村:そう

北垣:土層図が紹介されていないためわかりづらい

課題が出てきているようだ

私個人 大天守地形根切 伝統的なもの残されている

地山を根切している 大天守地盤

どうして宝暦の段階で古い石垣を解体して宝暦に積み直したのか

今日の話ではわかりにくい

出して欲しい

回答して欲しい

時間が 12 時

この話はこれで留め置き

搦め手馬出し 10年以上の仕事

組織の問題を含めて本年度本格的解体調査 手続がある
これは大幅に超過してしまう
委員の先生 次の仕事がある

岩本:整理する また部会を整理する

北垣:一番最後 追加発掘調査予定地図

名古屋城:追加調査 3月石垣部会
内堀状況、天守台石垣 検討した
資料2 追加発掘調査予定位置図

北垣:ご審議はできない
次回に延ばしたい
文化庁が見えている
今の状態 追加の措置 なにかご指導頂くことは
これでよいのか

中井:追加調査については、前年度まででは不十分と意見
私も同意見
3つ目的が達成されていなければ追加調査
場所 時間的にあれば次回
追加の調査についてはいいんじゃないか
場所は細かいこと 検討して

北垣:なにか

赤羽:前回石垣部会 地山と盛り土の関係 ばらばら つかみづらい
石垣に影響を与えない このような堀の真ん中を掘るのは妥当ではないか

北垣:調整をさせて頂く

事務局:今後調整する

北垣:最後まで進まなかった
終了したい

12:08

岩本:ありがとう

部会を再度やりたい

今後ともご指導ご助言を頂きたい

開催日は追って